



A.A.M.T

秋臨技

第108号

だより

第 108 号

発行所
〒010-0011 秋田市南通亀の町6-9
シティーガーデン南通I 101
TEL・FAX:018(825)2116
E-mail:aamt-01@comet.ocn.ne.jp
一般社団法人秋田県臨床検査技師会事務所

発行人 高橋一彦
編集主幹 渡邊正人
印刷所 石岡印刷所
秋田市手形十七流10-1
電話 018(884)4771

目次

- 新年のご挨拶 2
- 秋田県医学検査学会 3
- 令和4年度 全国「検査と健康展in由利本荘」 4
- 令和4年度秋の叙勲 5・6
- 事務局より・タスクシフト講習会 7
- 令和4年度秋田県環境・保健事業功労賞・編集後記 8





新年のご挨拶

(一社) 秋田県臨床検査技師会
会長 高橋 一彦



明けましておめでとうございます。新年を迎え、会員の皆様におかれましては気持ちも新たに業務に励まれていることと拝察いたします。

さて、2020年1月に日本で初めて報告された新型コロナウイルス感染症は拡大と縮小を繰り返し、まさしく2022年はオミクロン変異株ウイルスの対応に追われた1年間だったと言えます。私たち臨床検査技師は日常検査に加えてCOVID-19に関連した検査を積極的に担い、その使命を果たしていることは医療を支える職業団体として自負に値する業績であると考えております。私たちは検査の専門家の立場で更に研鑽を重ね、多職種連携していく必要があります。今後も会員の皆様には積極的な参画をよろしくお願いいたします。

このような感染状況下にもありながらも、2022年は秋臨技事業を少しずつ例年の活動状況に戻してきた年であったと感じております。昨年6月には定時総会が開催され新役員体制となりましたが、従前体制も継承しながら新たな課題に取り組む所存であります。各専門部事業ですが、学術部門研修会はWeb中心に年間を通じて開催され、参集型も開催されました。また県北支部担当により「第44回秋田県医学検査学会」、由利支部担当により「令和4年度検査と健康展」が開催されるなど、事業も予定通りに行われました。更に延期を重ねていた「タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」も昨年11月27日に第1回目が開催されました。本事業は私たち臨床検査技師の業務拡大に繋がる重要な講習会です。多くの会員が計画的に動画研修及び実技講習会を受講されますようお願いいたします。

昨年11月12日・13日に函館市にて「第10回日臨技北日本支部医学検査学会」が現地開催されました。感染対策を施して2年ぶりの現地開催となった本学会は、従来の学会に劣ることのない充実した企画内容でした。タスク・シフト/シェアに関する日臨技企画はもちろんのこと、個人的には「学生フォーラム」が特に印象深かった企画でしたが、臨床検査技師養成課程にある学生の自身の将来像への考えと、その個性の豊かさに感嘆して参りました。これから臨床検査技師となる若い世代のためにも、私たち現役世代は将来への道筋を確実に作る必要があることを改めて痛感しています。

私たちが今置かれている状況は決して楽観できるものではないと感じます。しかし、臨床検査を通じて医療に貢献する使命感は会員皆が持ち得ているものと確信します。秋臨技も会員のご協力の下、共に歩みたいと考えております。

文末となりますが、皆様にとりまして新しい年が健やかで良い1年となりますよう祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。皆様、本年もよろしくお願いいたします。



第44回秋田県医学検査学会をふりかえって



実行委員長
かづの厚生病院 北村 一幸

第44回秋田県医学検査学会は、令和4年10月29日に大館市のプラザ杉の子で、「SHIFT/移す・変える/」のテーマのもと、現地開催とオンライン開催を同時に行うハイブリット方式で開催されました。全県から176名の会員・賛助会員・協力企業の皆様方に足を運んでいただき、お陰様で盛会に終えることができました。県北支部担当での開催は5年ぶりとなりましたが、市内の病院を中心に大勢の方々からご協力をいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

一般演題では、15題の発表があり、そのうち本学会でデビューした技師が10名おりました。緊張したとは思いますが、今後につながるいい経験ができたのではないのでしょうか。また、今学会ではテーマ賞を新たに設けさせていただき、業務改善 (with コロナ) ・省力化・タスクシフト等、学会テーマ「SHIFT/移す・変える/」に沿っており、これからの検査室運営の一助となる3題に対して、賞を授与させていただきました。

午後からの教育講演では、NPS株式会社代表取締役社長の池田秀雄先生に「全自動PCR検査装置を中核としたPSSグループの取り組み」のタイトルで、PCR検査装置の測定原理や、感染症分野・がん医療での活用方法などについてご講演いただきました。普段、PCR装置を使用している我々にとって大変興味深い内容であり、得るものが多かったと感じております。また、特別講演では、大湯ストーンサークル館主任の赤坂朋美先生に「北海道・北東北の縄文遺跡群と大湯環状列石」として、世界遺産登録に至るまでの経緯、発掘調査等の成果、縄文遺跡群の価値などについてご講演いただきました。質疑応答では、活発な意見交換が行われ、充実した時間を過ごすことができましたと思います。お忙しい中、貴重なお話をさせていただきました両先生に厚くお礼申し上げます。そして、本学会に多大なご支援をいただきました協力企業や賛助会員、学会に参加いただきました会員の皆様のお陰で学会を無事に開催することができました。県北支部会員一同、心より感謝を申し上げます。最後に、秋田県臨床検査技師会の益々の発展と、本検査学会で各賞を受賞された皆様方の御活躍と会員の皆様のさらなる研鑽を祈念いたしまして、お礼とさせていただきます。

令和4年度全国「検査と健康展 in 由利本荘」

由利組合総合病院
藤谷 富美子

令和4年11月6日(日)由利本荘市文化交流館カダーレで、令和4年度全国「検査と健康展 in 由利本荘」を開催しました。今年度は「検査と健康展」を初めて由利本荘市で開催することになり、企画・運営を由利支部で担当させていただきました。

内容は『臨床検査について』『検査体験』『健康チェック・健康相談』です。『臨床検査について』は、臨床検査技師の仕事パネルで紹介、採血項目の説明パネル・採血管一覧のパネルの展示、臨床検査技師になるための養成学校の紹介、養成学校のパンフレットの展示などを行いました。お母さんと一緒に来てくれた高校生は臨床検査技師について興味を持っていて、技師に色々な質問をしていました。また別の高校生のお母さんには“このようなイベントは毎年行っているのですか?、良いイベントですね”と声をかけていただき、とてもうれしく思いました。

『検査体験』は顕微鏡での標本観察、超音波装置の操作を体験、PPE装着とピペット操作の体験を行いました。顕微鏡で血液細胞やピロリ菌の標本などを観察してもらい、携帯用超音波装置ではプローブを持って当ててもらい果物などを観察しました。またPPE装着を体験し、マイクロピペットを使って液体を10 μ lずつ分注することに挑戦しました。大人の方々も技師の説明を聞きながら熱心に顕微鏡をのぞいていて、その姿が印象的でした。

『健康チェック・健康相談』では技師がCAVI検査を行い、保健師さんが血圧測定を行いました。そして検査専門医の秋田赤十字病院の萱場広之先生のブースでは、市民の皆さんがCAVI検査や血圧の測定結果の説明や、日頃気になっている健康についての相談を行っていました。皆さん先生とじっくりお話をされており、終わると満足そうな表情をしていました。

今回の「検査と健康展」には49名の参加があり、小・中学生、高校生は合わせて18名、小・中学生は体験ブースを楽しそうに体験し、高校生は体験ブースはもちろんですが、養成学校のパネルや案内を熱心に見ていました。次回はこの「検査と健康展」を地域の方々に広く知っていただき、多くの方に足を運んでもらえるように考えていきたいと思えます。

初めての由利本荘市での「検査と健康展」開催でしたが、由利支部の会員が力を合わせ、由利支部らしい規模と雰囲気「検査と健康展」が開催できました。今は、なかなか技師会の行事に参加できずにいる状況ですが、今回の開催は若い技師にとっても貴重な経験になったと思います。

最後になりますが、開催にあたりご協力いただいた全ての皆さんに深く感謝いたします。

ありがとうございました。



叙勲御礼のことば

藤 田 秀 文



皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて私ことこの度令和4年度秋の叙勲に際し、はからずも瑞寶雙光章拝受の栄に浴し身に余る光栄と感激いたしております。皆様からご鄭重なるご祝意とご激励を賜りまして誠にありがたく厚く御礼申し上げます。去る11月4日に秋田県庁において佐竹知事から勲記・勲章の伝達を受けてまいりました。これもひとえに皆様方の温かいご指導ご支援の賜物と深く感謝申し上げる次第です。

振り返りますと40数年間臨床検査技師及び臨床検査技師会として秋田県や全国の医療に関わってきました。技術や制度の変革著しい時期だったと感じており、指導年齢になった時には「後輩たちには、魅力ある臨床検査の未来を紡がなくてはいけない」と思う様になりました。今から20年程前の県精度管理調査は血液・生化学の2部門で、隣県では既に8部門実施されておりました。当時輸血移植部門長であった私は執行部に「秋臨技でも調査範囲を拡大してください」と進言し、その後学術部門長を任せられ各部門と調整を重ねて秋臨技でも5部門へ拡大し現在に至ります。これが技師会活動の大きなスタートになったと思います。その後〈一般社団法人への移行〉〈県学会の各支部主催〉〈北日本支部学会開催〉〈全国検査と健康展開催〉等県技師会の運営にあたってきました。どれも根本には『公益性』が求められており、県民の皆様に臨床検査及び臨床検査技師を認識してもらうための事業であり次世代臨床検査の未来に紡ぐ事業でした。特に北日本支部学会では、県内各事業所から次世代を意識した精鋭を参集して実行委員会を結成し、『深化x伸化x新化～臨床検査の技と美を追求する～』をテーマに学生フォーラムの開催等未来を強く意識した内容は、県民や日臨技及び各県から絶賛評価を得ました。学生フォーラム秋田形式は今も脈々とそのDNAが引き継がれております。また、未来へ一丸となった実行委員体制はその後開催された〈全国検査と健康展〉へと引き継がれて、高校生や中学生への検査体験や進路相談へと臨床検査技師を目指すきっかけを作り出す事業へと発展していきます。

同じ頃日臨技では宮島会長が就任し「臨床検査技師の未来を拓く、安心して仕事ができ

る環境をつくる」と指導力を発揮し県技師会でもその重要性を会員の皆様に伝達すべく全力を注ぎました。臨床検査相談室の開設を手始めとして臨床への猛アピールが始まり、臨床検査技師等に関する法律の一部が55年ぶりに改正され、平成27年4月1日から臨床検査技師の業務範囲に一定の検体採取が追加されることになりました。厚生労働大臣指定講習会を踏まえ、臨床の現場に飛び込んでいく臨床検査技師の未来にとって大きな扉が開かれた時期であったと記憶しています。また、医療法等の一部を改正する法律の規定が平成30年12月1日に施行され、病院、診療所又は助産所における検体検査の精度の確保に係る基準では検体検査の精度の確保に係る責任者（臨床検査技師で可能）を設けることが必須となり、標準作業書や標準作業日誌等の基準が設けられ、まさに臨床検査における精度管理の重要性を国が認めて遺伝子検査の将来性にも弾みがつきました。また、タスクシフトが謳われ始め、臨床検査技師が医師の業務の一部を担う画期的で重要な時代となりました。臨床検査技師がますます医療にとって重要な存在になりつつも、自分たちから積極的にアピールしていくことが将来生き残りのカギとなることも事実です。

一言付け加えさせて頂くなら、宮島会長の政治への参画が前述法改正へと繋がったことが大きな原動力でした。なかなか政治活動への会員の理解は得難かったのですが、未来へ紡ぐ為には必要な手段であると思えます

コロナ禍で医療崩壊も懸念される中で臨床検査はますます注目されており、検体採取等臨床検査技師の現場への進出も珍しくない日常となっております。「必要とされる臨床検査技師の未来」を後輩に紡ぐことができたのではないかと少しは安堵しています。

今後は叙勲の栄誉に恥じることはないよう一層精進いたす所存でございますので従前にもましてご芳情賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら皆様のご多幸とご活躍をお祈り申し上げ謹んでご挨拶にかえさせていただきます。

令和4年秋吉日



事務局より

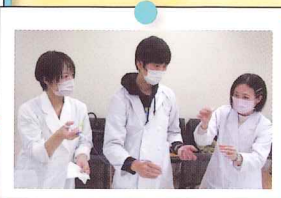
タスクシフトに関する 厚生労働大臣指定実技講習会を実施して

秋田赤十字病院 佐藤 多佳子

タスクシフトに関する厚生労働大臣指定実技講習会(秋田県)の第1回目を、令和4年11月27日(日)に52名の参加を得て日本赤十字秋田看護大学で実施しました。当初は令和3年11月に予定していた講習会でしたが、3回の延期を経てようやく開催することができました。

この講習は医師の働き方改革を進めるためにコメディカルにタスクシフト(業務の移管)ができるように行うもので、臨床検査技師には8項目の業務の移管が求められています。講習のやり方は、まずはwebによる700分の基礎研修を個人で事前受講し、その後で360分の実技講習を受けることとなります。今回の講習はこの部分に当たります。360分の内訳は実技動画の視聴が100分と、静脈路確保・造影剤、リブレ、肛門・内視鏡操作の手技講習が260分です。参加者からは未経験の内容もあり今後の業務に役に立ちそうだとの感想がありました。

秋臨技では最終的に約500名の受講修了を目指して今後もこの講習を続けていきたいと考えています。ただし、開催するには最低50名の参加が条件となっていて、そこが課題となってくるかもしれません。できるだけ早期に多くの方が受講していただけるようお願い申し上げます。



令和4年度 秋田県環境・保健事業功労者表彰



令和4年度秋田県環境・保健事業功労者表彰を
会長の**高橋 一彦**氏(雄勝中央病院)が受賞されました。

おめでとうございます。

編集後記



年末、年明けから今日に至るまで新型コロナウイルス感染が日本を覆っているものの、感染者数の数字には関心が薄くなってきているように感じます。世の中が動き出し始め、年末に開催されたサッカーワールドカップには心躍らされた方も多かったのではないのでしょうか。

今年こそは明るい生活が送れるようにと祈るばかりです。

(秋田厚生医療センター 渡邊 正人)